

はじめに

本書ではセンター試験の問題と私大の入試問題をほぼ半々で掲載している。センター試験の問題は、図表を多用して、分布や統計の特徴を背景から理解する能力、すなわち地理的見方・考え方を試すものが多く、図表以外の問題でも、単純な用語や地名が選択肢に並ぶ問題はほとんどなく、文の正誤判定が中心である。東大や京大などの国立大学二次試験ではこのような地理的考察力が論述式で問われるが、センター試験ではマーク式で問われている。したがって、暗記学習中心の日本史や世界史に比べると覚えるべき事項は少ないが、論理的思考力が必要とされる。また、地名の出題は少ないが位置は問われることが多いので、地図帳は必須である。一方、私大の問題は、大学による違いも大きいですが、用語や地名、位置、統計順位などに関するシンプルな問題が多い。しかし、現行の教科書に記載されていないような用語や地名が出題されることもあり、細かい知識中心の学習が必要とされる。ただし、センター試験で必要とされる地理的考察力には、用語や地名、位置などの基本的知識が前提として必要なため、私大の問題を知識の確認のために利用することができる。たとえば、最初に学習する自然環境の基本的知識である大地形区分は、鉄産資源の学習で、鉄鉱石は安定陸塊に、石炭は古期造山帯に多く埋蔵されていること、気候区の分布は、農業地域の学習で、イモ類を栽培する焼畑農業は熱帯雨林気候地域で、遊牧は無樹林気候のステップ気候地域とツンドラ気候地域で行われることなどで必要な知識となる。さらに、世界の面積上位7か国（ロシア、カナダ、アメリカ、中国、ブラジル、オーストラリア、インド）は安定陸塊の占める割合が高いため、鉄鉱石の生産上位10か国（2015年）には、この7か国（順不同）が含まれる。また、三大穀物である米、小麦、トウモロコシの生産上位3か国には、人口上位5か国の中国、インド、アメリカ、インドネシア、ブラジルは含まれるが、オーストラリアやカナダは含まれない。これは、人口は農業生産力と関係が深いため、乾燥帯中心のオーストラリアや亜寒帯中心のカナダでは多くの人口を養うことはできない。農業や工業、人口や都市では先進国と発展途上国の違いも重要で、経済発展とともにそれぞれどのように変化していくのかを知る必要があり、経済水準の目安となる1人当たりGNIは重要である。地形図の読図もセンター試験では頻出なので、問題演習を通じて読図能力を高める必要がある。センター試験に代わる共通テストは、プレテストをみると問われていることは基本的に変わらないので、本書の解説を読んで、地理的考察力を高めてほしい。

目 次

第1章 地図と地理的技能 (6問)	7
<hr/>	
①地図・地図投影法	
②正距方位図法	
③メルカトル図法、時差、地図	
④尾根・谷・集水域	
⑤地形図読図	
⑥地域調査	
第2章 自然環境 (6問)	29
<hr/>	
①世界の地形	
②世界の気候	
③日本の気候	
④環境問題	
⑤世界の自然環境と自然災害①	
⑥世界の自然環境と自然災害②	
第3章 資源と産業 (8問)	59
<hr/>	
①農業地域区分	
②世界の農業	
③海流と漁業	
④エネルギー・鉱産資源	
⑤工業	
⑥世界の工業	
⑦経済のサービス化	
⑧世界の交通・通信	

第4章 人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教（9問）

97

- ①人口と人口問題
- ②人口の分布と人口移動
- ③日本の人口ピラミッド
- ④集落
- ⑤都市
- ⑥人種・民族・国家
- ⑦国家群・貿易
- ⑧都市・村落と生活文化①
- ⑨都市・村落と生活文化②

第5章 地誌（11問）

145

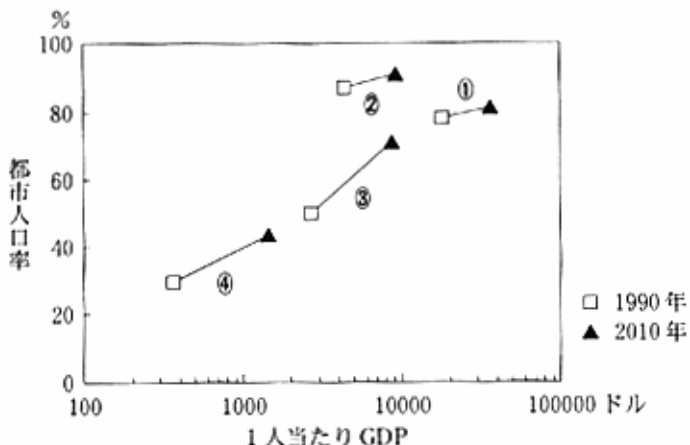
- ①中国地誌
- ②東南アジア地誌
- ③南アジア地誌
- ④西アジア地誌
- ⑤アフリカ地誌
- ⑥ヨーロッパ地誌
- ⑦スペインとドイツの比較地誌
- ⑧ユーラシア大陸北部地域、ロシア連邦の地誌
- ⑨北アメリカ地誌
- ⑩南アメリカ地誌
- ⑪オーストラリア地誌

⑧ 都市・村落と生活文化①

[センター試験地理B/本試(改)]

都市・村落と生活文化に関する次の問い(問1～6)に答えよ。

問1 次の図1は、いくつかの国における1人当たりGDP(国内総生産)と都市人口率の推移を示したものであり、①～④はアルゼンチン、イギリス、ナイジェリア、マレーシアのいずれかである。アルゼンチンに該当するものを、図1中の①～④のうちから一つ選べ。



World Urbanization Prospects などにより作成。

図 1

問2 特定の機能が発達した都市について説明した文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ターチン(大慶)は、石油関連産業が発達した鉱工業都市である。
- ② ニースは、スキーリゾートを中心とした観光保養都市である。
- ③ パナマシティは、地中海と紅海を結ぶ運河沿いの交通都市である。
- ④ モントリオールは、首都として計画的に建設された政治都市である。

はBRICsで、1位国は2位の衣類から中国、2位国は原油と石油製品からロシアとわかる。dはASEANで、1位国はシンガポール、2位国は2位の自動車から東南アジア最大の自動車生産国のタイとわかる。

■7) 農産物の輸出額が少ないbが日本で、トウモロコシ、肉類は世界一の輸入国である。aは中国で、米、大豆、砂糖、棉花、羊毛などの世界一の輸入国である。cはイギリス、dはロシアで、両国とも肉類や野菜、果実などの輸入が多い。ロシアの農産物輸出額1位は小麦（世界5位）であるが、イギリスの農産物輸出額1位は蒸留酒（ウイスキー、世界一の輸出国）で、輸出額がロシアの小麦を上回り、農産物輸入額1位はワインで、これも輸入額が大きいため、輸出入額ともにロシアより多くなっている（cとdの判定はできなくてよい）。

■8) 欧米諸国のブロック経済化が第2次世界大戦につながったという反省から、戦後にIMF（国際通貨基金）、GATT（関税と貿易に関する一般協定）が設立されて自由貿易が促進されたので、aとbは正しい。WTO（世界貿易機関）は、1995年にGATTを引き継ぎ、先進国だけでなく発展途上国も含む世界の多くの国の貿易の自由化を進めているので、cは誤り。dは正しく、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）は、環太平洋諸国の経済自由化を目指している。

■9) a、誤り。1960～1970年代は鉄鋼が主要な輸出品で、自動車は1980年代以降に主要な輸出品となった。b、正しい。近年は機械類が輸入額1位で、原油や液化天然ガスが続いている。c、誤り。第1次・第2次オイルショックのあった1973年、1979年の後は貿易赤字となったが、1981～2010年までは貿易黒字が続いた。東日本大震災の発生した2011年以降は赤字に転じたが、2016年以降は黒字になっている。d、誤り。緊急輸入制限（セーフガード）は、国内産業を守るために関税引き上げを行うことで、日本では中国やアメリカ合衆国からの農産物輸入に対して、アメリカ合衆国は日本や中国、EUなどからの鉄鋼や自動車の輸入に対して実施したことがある。

■10) 貿易額が1位のaは中国で入超、2位のbはアメリカ合衆国で出超である。cの韓国とdの台湾には半導体製造装置や集積回路などの機械類の輸出が多く、出超となっているが、オーストラリアからは石炭や液化天然ガス、鉄鉱石などの輸入が多く、入超となっているのでeが該当する。

8 都市・村落と生活文化①

解答

問1 ② 問2 ① 問3 ② 問4 ④ 問5 ② 問6 ③

■問1 都市人口率は、一般的に工業化とともに上昇し、先進国で高く、発展途上国で低い。①は1人当たりGDPが最も多いことから、先進国のイギリスである。一方、最も経済水準が低く、都市人口率も低い④は、ナイジェリアである。②と③は、2010年の1人